

教育方法16 実践にとって教授学とは何か

第一部

I

「いじめ」克服と教育方法学の課題

現代における教授学の学的性格

一

授業の成立原点とその思想—「現代」における「教授の知」とは何か—

吉本 均

二

現代における教授技術の性格

柴田 義松

三

教育方法学の科学性について

川合 章

II

教育評価の今日的課題

一

授業でなにを評価するのか

沼野 一男

二

教育評価の多様化と複合化

水越 敏行

III

授業における感性と認識

一

「感性」を廃棄しよう

宇佐見 寛

二

教授過程におけるメタフォリカル技法

笹本 正樹

IV

子どもの人間的自立と教育実践・研究の課題

—「いじめ」「登校拒否」等の問題と教育方法—

一

「自立」の検討視点

浅野 誠

二

思春期の人間関係・仲間関係といじめ

乾 彰夫

三

「いじめ」の克服と学級における生活指導

島田 啓二

第二部

I

日本教育方法学会第二十一回大会成果から

シンポジウム

II

課題研究

一

現代における教授学の学的性格

二

教育評価の今日的課題

三

授業における感性と認識の問題

四

子どもの人間的自立と教育実践・研究の課題

—「いじめ」「登校拒否」等の問題と教育方法—

III

自由研究